



8 / 24 「学びの集団づくり研修講座」の概要を紹介します！

子どもが選ぶ！子どもが決める！ 子どもが育つ！学級づくり

若松 俊介 先生



京都教育大学附属桃山小学校教諭／「国語教師竹の会」事務局／NHK for school の情報番組や若手教員向けオンライン学習会、教育委員会主催の講演会などでご活躍中。

子どもたち一人一人が教室で輝ける学級を作るために、教師の役割はどうあるべきか。「自律性」と「協働性」を育てる教師の仕掛けを中心に、子どもも教師も笑顔になる学級づくりについて、若松先生の具体的実践をもとに受講者の方と一緒に考えた、実りある研修となりました。内容を一部紹介します。

学級づくりで大事なことは

子どもたちの「自律性」と「協働性」を育てること

「自律性」を育てる仕掛け

① 問いかける

- ・大事なことは言わずに問いかける。
- ・「分からない」が出るようにする。

② チャレンジする場を用意する

- ・小さな目標を一緒に決める。
- ・一人一人の立場をつくる。

③ 振り返る場をつくる

- ・少しの成長を見つけてフィードバックする。
- ・振り返ることで「個」の学びに返す。



「協働性」を育てる仕掛け

① 子どもたち同士が関わる場を増やす

- ・簡単な会話の場をつくる。
- ・「知らないふり」をして子ども同士をつなぐ

② 目的を共有する場をつくる

- ・ペアやグループでの学びの場をつくる。
- ・グルーピングを工夫する

③ 振り返る場をつくる

- ・「うまくいかない」場をつくる
- ・少数の立場の意見を価値づける



「子ども主体の学級を実現する」3ステップ

① あらゆることを「自分事」にできるようにする

② 「うまくいかない」を乗り越えられるようにする

③ 子どもたち自身で成長する姿を支える

子どもたちの自律性と協働性を育てる

自分たちの学級は自分たちで
つくるという意識



「自分（たち）の幸せを自分（たち）でつくっていく力」

少しずつ教師のすべきことを減らすことが大切ですが「教師が必要でない学級をつくる」ことが目的ではありません。



受講者の声

- ・学年主任なのですが、担任の先生方にも学びを伝え、さっそく学年全体で取りこんでみたいと思う。
- ・できている中にヒントがあり、足し算思考でという言葉が心に残った。子どもたちと一緒に考えたり、子ども同士で話し合えるようにつないだりすることを大切に日々子どもたちと関わっていきたい。